

伏見板橋

平成25年度 学校だより



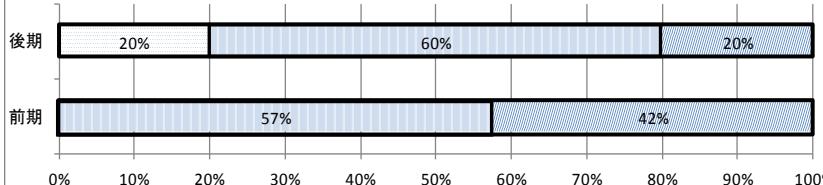
特別号2

京都市立伏見板橋小学校
校長 山下高史
TEL 075-611-5158
FAX 075-611-5290
<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/itahashi-s/>

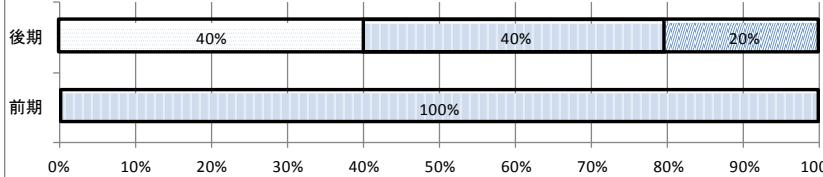
地域の方々からのアンケート結果

(1~3は平成25年度前期との比較、4は児童の振り返りとの比較を表しています。)

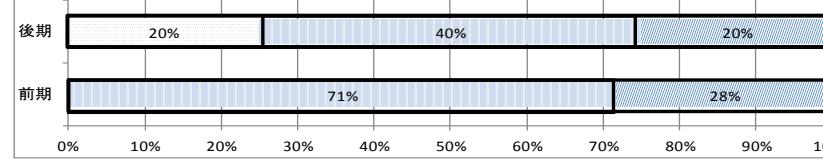
1 子どもは挨拶ができる



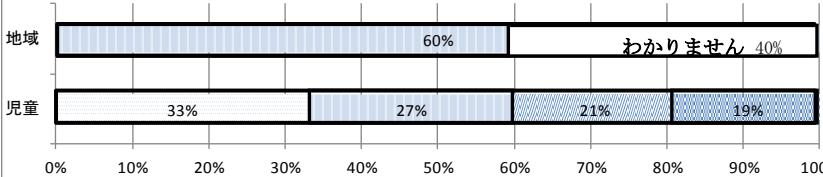
2 地域で見かける子どもたちは元気で明るい



3 子どもたちは地域でマナーを守って生活している



4 子どもは地域の行事に進んで参加している



地域の方々からのご意見

《1 あいさつについて》

- こちらから挨拶をすると挨拶をしてくれる子、自分から進んで挨拶してくれる子、様々ですが、顔を見て挨拶ができるようになるといいなと思います。
- 朝、声をかければ挨拶を返す子どもが多くなってきました。目を見て返してくれるで気持ちがよいです。全体的ですが子どもたちが明るくなったように感じます。

《2・3 安全・マナーについて》

- 友達同士話に夢中になっているとあまり気にせず歩いているので、どこまで危険を感じているのか冷や冷やすることがあります。
- 自転車のスピードを出しての走行で車や人とぶつかりそうになったりしている姿も見かけます。子どもに限らず大人も気をつけることだとは思いますが…。

《その他》

- 参観させていただいた時、掲示物に関心をもちました。特に子どもの詩の掲示などは教育環境に気を付けられているなと感じました。古い校舎なりに清掃等きちんと参観日を迎えていたのだなと思いました。

未来を拓く板橋の子

—めざす子ども像—
今、何をするときか分かる子

目標をもち、よく考え意欲的に学習する子（確かな学力）

出会い人・もの・時を大切にする子（豊かな心）

自ら判断し、ねばり強くやりぬく子（強い心と体）

子どもの振り返り

高...4・5・6年
低...1・2・3年

よくできる

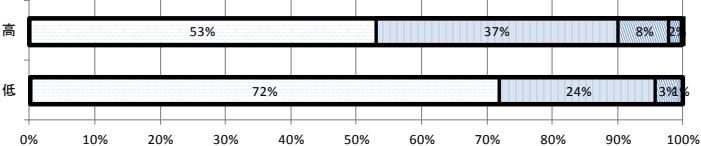
大体できる

あまりでき

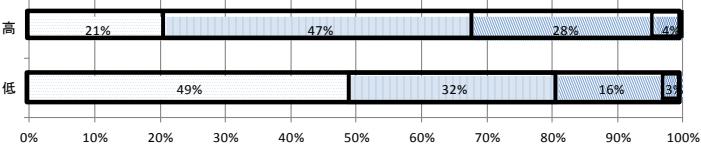
できない

できない

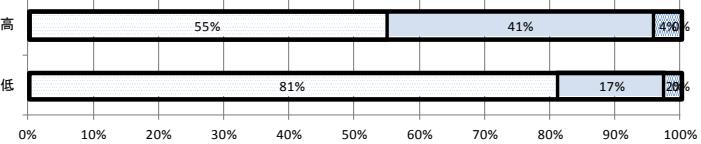
1 学校生活は楽しい



2 自分から進んで挨拶ができる



3 友だちを大切に仲良くできている



子どもの振り返り より

1 学校生活は楽しい

- 全校でほとんどの児童が「楽しい」と答えていますが、毎回数%の児童は、「学校生活は楽しくない」と答えています。子ども自身に日々の学校生活を楽しいと感じられるように学力を保障していくことや、あらゆる場でよりよい人間関係を築けるよう力をつけていかなければなりません。勿論、その楽しくない要因を取り除き、すべての児童が明日を待ちわび、顔を輝かせて登校できる学校にしていきたいと思います。

2 自分から進んで挨拶ができる

- 低学年、高学年ともほとんどの児童が「自分から進んで挨拶ができる」と答えています。児童の意識と大人(教職員)との認識の差が大きいものの一つであります。児童は、教室での朝の挨拶や授業中の返事、下校時の挨拶などは進んでできていると振り返っているようです。

5 自分から進んで本を読んでいる

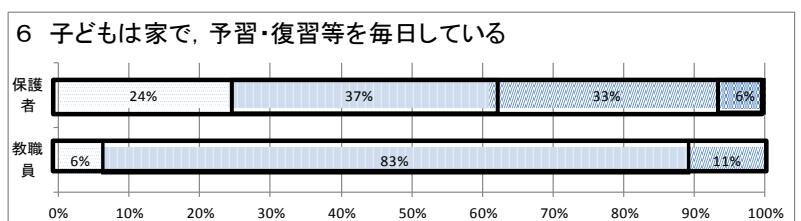
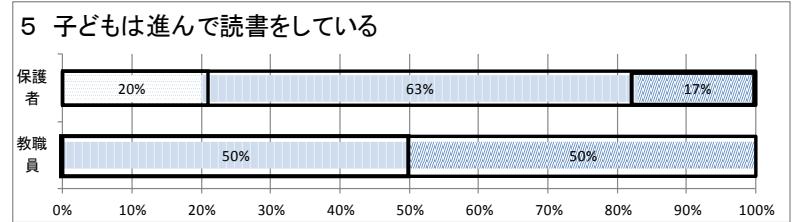
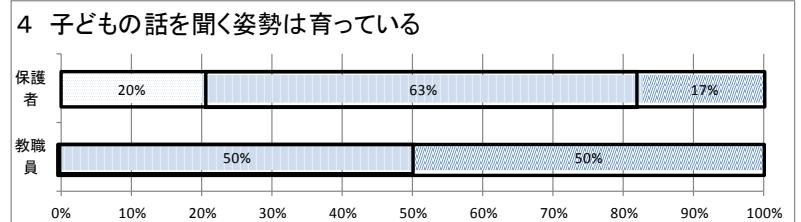
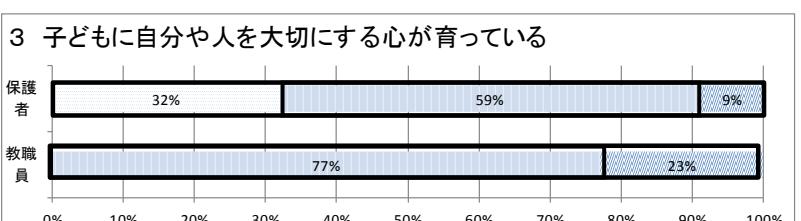
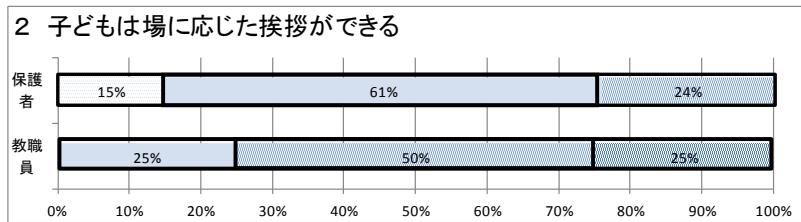
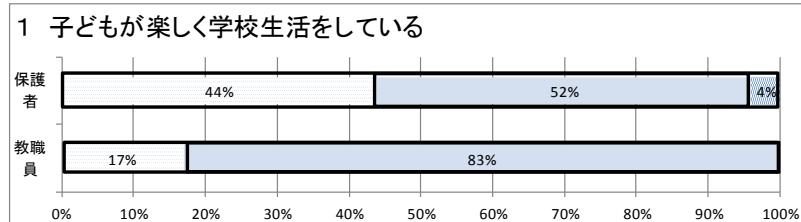
- 保護者のアンケートからも、子どもの振り返りからも「読書」の項目で高学年になるほど減る傾向が見られます。高学年になるほど塾や習い事へ通う子どもが増え、学校以外の場所での読書の時間がとりにくくと考えられます。どれだけの本を読んでいるかという冊数だけでなく、その内容や時間、読書に対する姿勢など、いろいろな視点から、取り組み方を工夫する必要があると考えます。学校では、朝の読書の時間は10分間だけで終わりますが、間があれば本を開いている児童の姿もちらほら見えてきました。

6 家で予習・復習・宿題などできている

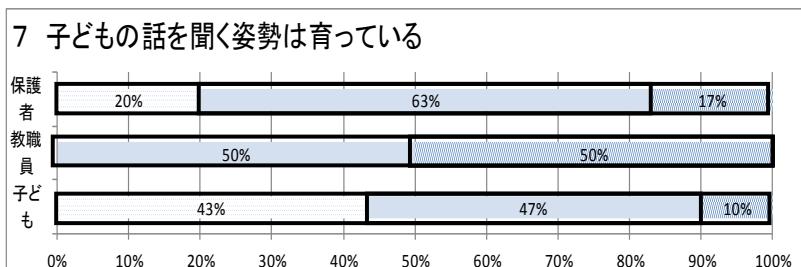
- かなり定着してきているのは、各学級の取組や家庭での支えが大きな原動力になっているからだと思います。学校から出される毎日の宿題は勿論必ずしなければならないもので、全校的にはほぼ確実にできています。今後は、宿題以外の家庭学習について、その内容や、自学自習に向けて工夫されているかという点について、これからも考えいかなければならない課題です。

保護者・教職員による評価から

よくできている 大体できている あまりできていない できていない



話を聞くことについて



平成25年度後期学校評価にご協力いただき、ありがとうございました。

保護者の皆様からいただきました回答の中には本校の取組を肯定的に受け止めていただいているもの、ご指摘していただいているもの等様々な視点からのご意見や評価をいただきました。学校内部からはなかなか見えにくいこと、気づけなかったところ等知ることができました。

教職員の「自己評価」の結果と「子どもの振り返り」、「地域の方々の評価」と合わせて、継続・発展すべきところ、改善すべきところを明らかにして、今後の教育活動に生かしていくよう取組を進めてまいります。また、保護者の皆様と評価結果を共有し、連携していくかと思います。よろしくお願ひします。

保護者・教職員の振り返り結果から

1 子どもが楽しく学校生活をしている

保護者の皆様の評価も教職員の評価も前期とほぼ同じ値で、子どもは楽しく学校生活をしているとみています。しかし、子どもの振り返り（表面）には約10%の児童が「楽しくない」と答えてる現実があります。

今後も当然のことながら学校は楽しいところであり、だれもが安心して、目を輝かせて来られることが、学校づくり・学級づくりの基本と捉え、子どもたちに接していきたいと思っています。

2 子どもは、場に応じたあいさつができる

昨年同様、「自分から進んであいさつができる」「場に応じたあいさつができる」と答える保護者の皆様の24%に比べ教職員の答えが75%以上と大変多いです。しかし、地域の皆様の声の中には「よく挨拶できている」が20%と、前期より少し評価は上がってきたようです。

挨拶がしっかりできる子どもに育てるには、ただ「挨拶をしましょ。」と声をかけるだけでは効果が薄いと考えられます。子どもたちにできない理由を尋ねると、「はずかしい」「朝はしんどい」といった理由をいいます。しかし、このような理由で済ませるわけにはいきません。

児童会の『あいさつ運動』などで児童から働きかけたり、見守る会の方々のご協力を得たり、周りの大人が模範となるよう積極的に挨拶をしていきたいと思います。

5 子どもは、進んで読書している

保護者の皆様と教職員の評価・子どもの振り返りとの差が大きなものになっています。

高学年では、学校での授業を終えたあとにも、体力づくりや部活動に参加したり、塾や習い事に通ったりする子も多くあり、じっくり読書に向かう時間がとれない状況があるようです。毎日読書に取り組むことは大事なことではありますが、家庭でもたっぷり時間のある土・日曜日を利用して読書に取り組むように声をかけたり、親子で読書の時間をもったりするなど、子どもたちに本の面白さ、楽しさにふれる時間を多くしていく必要があるでしょう。

6 子どもは家で、予習・復習などの家庭学習を毎日している

家庭学習については、保護者の皆様の評価61%，教職員の評価は89%ができていると答えています。これは、宿題も含まれていると考えられます。さらに、その学習の内容や自学自習に向かっていかに工夫されているかという点については、これからも考えていかなければならぬ課題だと思います。また、保護者の皆様の中にも「予習・復習などの家庭学習はあまりできていない・できていない」という評価が約40%もみられます。このことから、家で宿題はしていても、予習・復習などは全くしていない子どもがいると考えられます。する子としない子がはっきり分かれてどんどん差が広がります。今後、その